

行政視察報告書

草津市議会議長
遠藤 覚 様

令和 8 年 2 月 16 日
草津市議会会派「みらいと維新の風」
会長 田中詩織

1. 視察の概要

- 視察日：2026 年 2 月 5 日・6 日
- 視察先：愛媛県松山市
 1. エルパティオ（保育・子育て・女性支援複合事業）
 - 2 月 5 日（木）10 時～12 時
 2. 松山アーバンデザインセンター（UDCM）
 - 2 月 5 日（木）14 時～17 時
 3. 松山市 産学官連携窓口「まつやま未来パレット」
 - 2 月 6 日（金）10 時～17 時

- 視察者：草津市議会会派「みらいと維新の風」
田中詩織・八木良人・野村友子・藤本晶

- 目的：
公民学連携、子育て・女性支援、歩行者中心の都市再構築など、持続可能な都市経営の先進事例を学び、草津市の政策形成に活かす。



2. エルパティオ

（妊活期から自己実現までの切れ目ない支援）

（1）理念

「ママが Happy ならこどもも Happy」
母親の心身の安定と自己肯定感の回復を、家庭内にとどめず地域経済・社会全体の循環へとつなげる発想が特徴。

（2）主な取り組み

- 産後 1 か月前後の心理的不安への重点支援
- 柔軟勤務型「スポット保育士」制度
- フェムテック事業
- 母親の声を企業価値へ転換する収益モデル

補助金依存ではなく「自走型支援モデル」を構築している点は特筆すべきである。



(3) 草津市への示唆

- 行政の縦割り制度では支えきれない「生活の連続性」
- 民間の柔軟性 × 行政の信頼性 の融合
- 女性活躍は福祉政策に留まらず都市戦略そのもの

母親の安心は、まちの空気を変える。

これは定量化しにくいですが、極めて重要な都市価値である。

3. 松山アーバンデザインセンター (UDCM)

(公民学連携による都市再構築)

(1) 組織概要

2014年設立。全国26拠点あるアーバンデザインセンターの一つ。
政・民間・大学が参画する都市再生プラットフォーム。

- ミッション：
 - 創る (空間デザイン)
 - 学ぶ (担い手育成)
 - 交わる (賑わい創出)

(2) 花園町通り整備

- 車線を2→1へ削減 (道路再配分)
- 歩道拡幅・ウッドデッキ・芝生空間
- 市民参加型ワークショップ
- 歩行者通行量 約2倍増
- 2018年グッドデザイン賞受賞

道路を「通過空間」から「滞在空間」へ転換。

(3) 駅前広場再整備 (約5,000㎡)

- 歩行者空間化
- 社会実験を重ね合意形成
- 利活用前提の設計思想

(4) 草津市への示唆

- 公共空間の再定義が都市価値を上げる
- 社会実験による合意形成は不可欠
- 「学」の専門性を恒常的に組み込む体制が重要



行



草津市も大学があり、アーバンデザインセンターみなくさがあるまちであることから、連携の深度を一段引き上げる余地がある。

4. まつやま未来パレット（産学官連携のワンストップ窓口）

（1）設置の背景

松山市では、女性の転出超過や人口減少を重要課題として認識し、持続可能な都市経営のために行政単独ではなく官民連携による価値創出が不可欠との判断のもと、令和5年5月に設置された。

市長公約にも「産学官で新技術・サービスを生み出す場の創設」が掲げられている。

（2）制度の特徴

- ・ 民間・大学等からの提案をワンストップで受理
- ・ 複数部局にまたがる案件も一元対応
- ・ 初期段階では予算措置なしで対話を重ねる
- ・ 役割分担・目的・実現可能性を明確化してから進行

特に「予算を使わずにスタートできる」点は提案ハードルを下げる効果がある。

（3）発展的展開

令和7年4月より、実証実験に予算を付す「まつやま未来コネクト」へと段階的進化を予定。

“対話型入口”と“実証型出口”の二層構造が形成されている。

（4）草津市への示唆

- ・ 官民連携は「窓口」ではなく「設計思想」が重要
- ・ 予算前提でない実験的対話の仕組みは導入価値が高い
- ・ Win-Win を制度的に担保する設計が持続性の鍵



5. 総括 — 松山市視察から見えた3つの構造転換

今回の視察を通して共通して見えたのは、以下の3点である。

① 公共空間は「移動」から「滞在」へ

道路や駅前が交通処理空間ではなく、都市価値創出装置である。

② 支援は「制度」から「生活の連続性」へ

妊活から就労まで、人生を断絶させない支援構造が都市の未来を決める。

③ 行政は「管理主体」から「設計主体」へ

単なる補助金交付や許認可機関ではなく、仕組みをデザインする主体へ。

6. 最後に

松山市の取り組みは、それぞれ分野は異なるが、共通して「対話」「実験」「段階的発展」という構造を持っていた。制度を急激に変えるのではなく、対話を重ね、社会実験で確かめ、合意を育てながら構造転換を進める。これは、草津市においても実践可能なアプローチである。

本視察で得た知見を、今後の議会活動および政策提案に活かしていく。

エルパティオ：母親を主軸とした「切れ目のない」包括支援モデル

本視察報告書は、民間主導で「母親自身の幸福」を起点とした包括的支援を行う「エルパティオ」の取り組みをまとめたものです。行政の縦割りでは解消しにくいライフステージの連続性に対し、柔軟な発想で挑む持続可能な支援のあり方を示唆しています。

支援の理念と包括的アプローチ

持続可能な運営と社会実装



© NotebookLM

公民学連携で進化する「歩きたくなる街」：松山アーバンデザインセンター（UDCM）の挑戦

行政・民間・大学が連携するプラットフォーム組織として、柔軟なまちづくりを推進。車道を歩道へと再配分するハード整備と、市民の交流や人材育成を担うソフト事業の両輪で、街の価値を向上させています。

組織の仕組み：公民学が交わるプラットフォーム



3つのミッション：創る・学ぶ・交わる

- 創る** 空間デザイン
- 学ぶ** 担い手育成
- 交わる** 賑わい創出

成功の秘訣：空間の再定義と社会実験



道路空間の再配分
車線を削減して歩道を拡幅し、市民が滞在できる質の高い公共空間を創出しました。

社会実験による合意形成
恒久的な整備の前に仮設設営で効果を検証し、市民の意識改革と合意を促します。

整備後の顕著な成果
花園町通りでは歩行者通行量が約2倍に増加し、地価も上昇に転じました。

花園町通り整備による主要な変化	
車検数：	2車線（整備前）→ 1車線（整備後）
歩行者通行量：	-（整備前）→ 約2倍に増加（整備後）
評価：	-（整備前）→ 2018年グッドデザイン賞受賞（整備後）

© NotebookLM

まつやま未来パレット：官民連携を加速させるワンストップの仕組み

松山市独自の官民連携プログラム「まつやま未来パレット」の画期的な仕組みと、そのメリットを視察報告に基づき分かりやすく伝える。

ステップ1：提案のハードルを下げる窓口の仕組み

縦割りを排した 「ワンストップ窓口」

複数部局にまたがる提案を一元的に受け止め、迅速な検討を可能にします。



予算ゼロから始める 対話型エントリー

初期予算を不要にすることで、民間企業が提案しやすい環境を整えています。



ミスマッチを防ぐ 丁寧な合意形成

事前の対話で目的と役割を明確化し、実効性の高い連携を実現します。

ステップ2：実装と地域課題解決への展開

「未来コネクト」への 段階的な深化

令和7年度からは予算を伴う実証実験へ移行できる新制度も始動します。



官民双方が利益を得る Win-Winの関係

単なる支援ではなく、互いのメリットを重視することが持続可能な圏に繋がります。



官民連携による 新たな価値の創出

行政単独では困難な課題に対し、産学官の知恵を融合させて挑みます。